

和緑化事業所における環境緑化樹木の生産について

上田・和緑化事業所 井出 義文
 経営課 造林係 川合 万之助

はじめに

異常とまでいわれたわが国の高度成長のひずみは、公害あるいは人間疎外となって、我々の周辺の生活環境を脅かす結果となったが、その環境を守る唯一のものとして、緑に対する国民のあこがれと諸要請は、環境緑化に対する強い関心と、緑化木の著しい需要の形となって、現れてきている。こうした中で、とりわけ山取木に対する人気は従来に増して強いものがある。しかしながら山取木の供給は、諸制約や資源の面から限度があること、採取に当たっての不確定要素があるなど、その確保は容易でないことから、緑化木生産事業としては、養成木への依存度が高くなることはやむを得ない状況であるといえる。

一方、国有林としては、民間企業が手掛けている入手の容易な養成木を生産することは適切でないので、山地に自生しているものの中から、一般に需要が見込まれる希少価値の高いものが条件となる。

しかし、これらには、まき付、あるいは、さし木からの養成、販売までの確たる生産体系ができていなかったが、暗中模索を重ねる中から緑化木生産事業として安定的な需要が見込まれる樹木についての生産体系がほぼ確立できた。その中で特に人気、収入面でも大きなウエイトを占めるようになった代表的な樹種であるサラサドウダンを例にとって、その収益性及び、和緑化事業所の環境緑化生産事業に対する今後の進め方について述べ、大方の御批判と、御指導を仰ぐものである。

1 和緑化事業所の概要

1. 場 所 小県郡東部町大字和
2. 標 高 1,030~1,100 m
3. 面 積 938 a
4. 在庫数量 山取木 31種 7,317本
 養成木 39種 183,006本
5. 地 況 土性：適潤性黒色土
 方位：SW
 深度：深
 雨量：810% (S53年)
 気温：最高 30.2℃ (S53.8.21)
 最低-15.1℃ (S53.2.17)

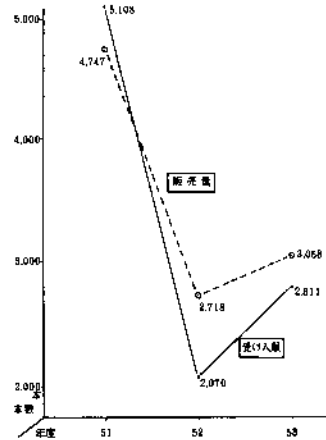
6 事業所の経緯

- 昭和6~47年 カラマツを主体とした種苗事業
 昭和47~現在 環境緑化木生産事業

1 事業実行の経過

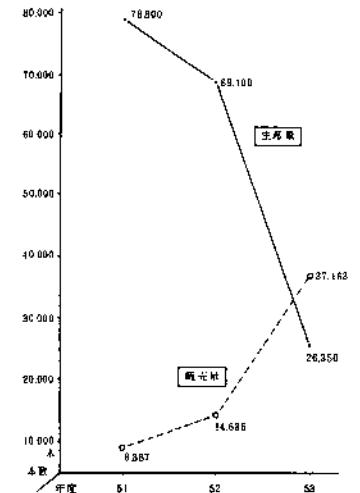
1. 山取木の受入れ、販売量の推移

図-1 山取木の受入れ販売量の推移



2. 養成木の生産量と販売量の推移

図-2 養成木の生産量と販売量の推移



3. 養成木の工程別生産費

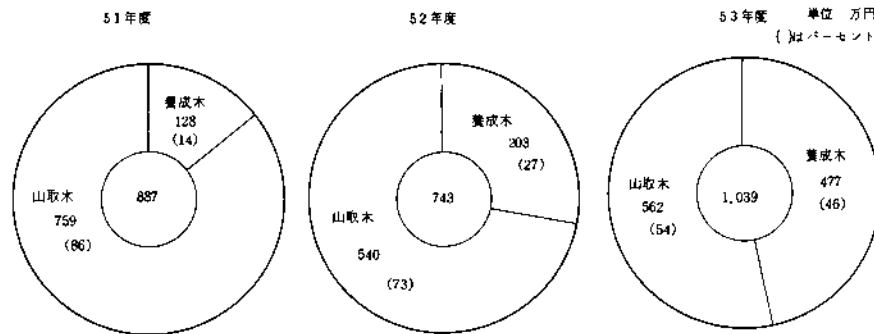
表-1 養成木の工程別生産費

年 度	種子採取		まき付け		床 替		掘 置		販 売		準 備	堆 肥	共通費	費用計	
	重量	金額	重量	金額	本数	経費	本数	経費	本数	金額					
50	Kg 27,973	円 238	Kg 47,310	円 1,305	本 101,255	円 1,561	本 74,800	円 74,800	本 307	円 8,867	円 74	円 1,191	円 405	円 9,418	円 14,499
51	12,760	117	29,137	477	193,916	2,359	89,468	1,343	13,012	450	1,210	1,305	8,438	15,699	
52	0.084	10	0.084	146	103,976	1,742	171,057	1,638	21,814	1,840	631	356	8,182	14,545	
53	0.010	11	1.138	227	64,521	1,175	204,488	1,380	58,181	1,754	1,050	300	8,103	見込 14,000	

(注) 内部振替等を含む。

4. 養成木と山取木の収入割合

図-3 養成木と山取木の収入割合 (現金収入)



5. 販売方法と売払金額

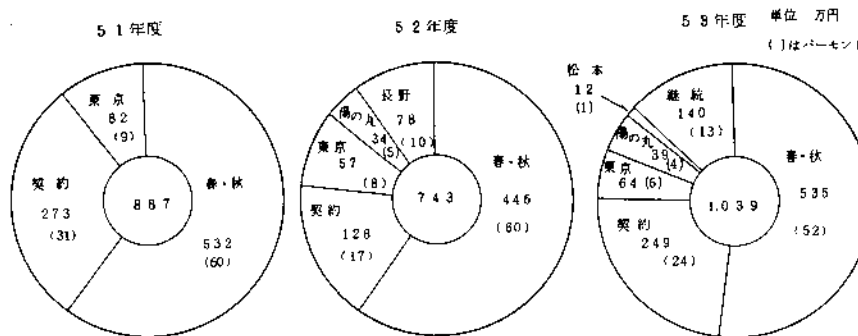
(1) 年度別売払方法

表-2 年度別売払方法

販売方法	51年度	52年度	53年度
春・秋即売会	○	○	○
東京 #	○	○	○
湯の丸 #		○	○
長野 #		○	
松本 #			○
継続 #			○

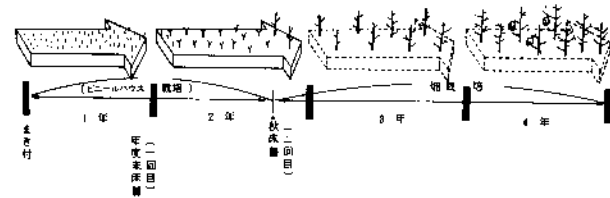
(2) 年度別、販売別売払金額

図-4 年度別、販売別売払金額 (現金収入)



II サラサドウダンの生産体系

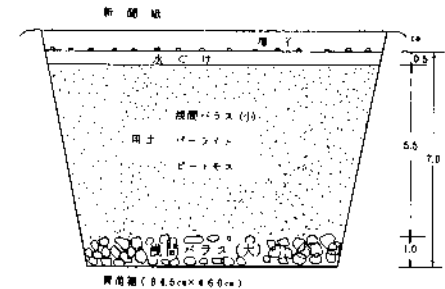
図-5 サラサドウダンの生産体系



1. まき付方法

年度末の3月、ビニールハウス内で育苗箱へ図-6の方法により、浅間ガラス(大)1cm、その上に浅間ガラス(小)、パーライト、ピートモス(比率1:1:2)をよくかきまぜて5.5cmを入れ、水苔(ごけ)を0.5cm水平に敷き、種子とパーライトをまぜ合せ均一になるようにまき付ける。更に乾燥防止と保温のために新聞紙を張り、まき付を完了する。

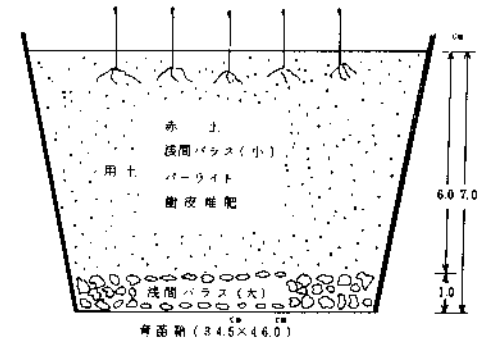
図-6 まき付方法



2. 1回目床替方法

苗長12cm前後の1年生苗を、図-7の方法により育苗箱に床替しビニールハウスで管理する。

図-7 1回目床替方法



3. 2回目床替方法

苗長30cm前後になった苗を、ビニールハウスから出し畑に床替する。苗木の生理面から見ると、春床替が最も理想であるが、春先に集中する作業を分散するため秋床替を実行しており、活着率は良好である。

4. 有利販売が予想される主要樹種と在庫量。

5. 販売

(1) 販売苗齢

養成木の開花には10年以上必要と予想していたが、4年生で1%の開花があった。したがって3年生から販売が可能であり、4年生に人気が集まっている。

